

大久保地区育成委員会だより

第33号

新宿区大久保地区青少年育成委員会

広報部 TEL 3209-8651

令和元年10月号



着任のご挨拶

新宿区立戸山小学校

校長 百合野 壽郎



本年度4月より、山崎涼二前校長先生の後任として、新宿区立戸山小学校第24代校長に着任いたしました、百合野 壽郎（ゆりの としお）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

平成から令和へと変わる区切りの年に、開校100年を超える歴史ある学校に着任いたしましたことに、大いなる喜びを感じると同時に、その責任の重さに、身も心も引き締まる思いでいっぱいです。

地域の皆様方の多大なるご理解とご協力により築き上げられてきた、伝統あるこの戸山小学校を、令和の時代にさらに発展させるべく、誠心誠意教育活動に取り組んで参りたいと思います。今後とも、地域の皆様方のより一層のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

令和元年度の戸山小学校は、子どもにとって「通ってよかった戸山小」・保護者にとって「通わせてよかった戸山小」・地域にとって「地域が誇れる戸山小」の学校経営方針のもと、子どもが主役の学校づくりを目指していきます。

新学習指導要領の全面实施を1年後に控え、これからの子どもたちに求められる資質・能力である

①「自立した人格を持つ人間として、他者と協力しながら、新しい価値を創造する力」

②「主体的に学ぶ力」

③「豊かな人間性」

を育んでいくには、学校のみならず、子どもと学校（教師）の信頼関係はもちろんのこと、学校と家庭の信頼関係・学校と地域の信頼関係・家庭と地域の信頼関係が欠かせません。

そして学校・家庭・地域の三者が信頼関係を築いていくためには、互いに協力し合い、それぞれの役割に応じた責任を果たすこ

とが求められます。そうして三者の信頼関係が深まることで、歴史ある戸山小学校において、学び・教えることへの喜びや、この地域で子どもたちが成長していくことへの誇りを戸山小学校にかかわる全ての人が共有することができると考えています。

これからも戸山小学校は地域協働学校として、地域とともに子どもを育てる学校に取り組み、学校・家庭・地域とが連携・協働して子どもたちの豊かな学びの環境を作り上げ、チームとして子どもたちの成長にかかわり、開かれた学校づくりを推進していきます。



みんなの力で年輪を刻む

西早稻田中学校

副校長 村上 利明



本年度、区内の牛込第二中学校より転任してきました、村上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本校は前任の勤務校に比べて、生徒数、教職員数、校舎校庭の敷地面積などすべてにおいて約3倍増に相当する学校となります。朝礼時の体育館は生徒でいっぱいになります。6月には天候の心配もありましたが、運動会を無事に終えることができました。人数の多さは活気を生み出し、闘争心を奮い出させます。3年生の騎馬戦や大むかでは、期待通りの醍醐味を味わうことができました。また、多数の保護者をはじめ地域からの協力もあって、運動会の盛り上がりをみんなで支え、見守られている学校だと強く感じました。二学期に実施される西早稻田祭においても、どのような盛り上がり方をしてくれるのだろうかとか今から楽しみにしています。さらなる地域・保護者の方々のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、本校は本年度、創立15年目を迎えます。旧戸塚第一中と旧戸山中の統合により創立されることになった時、私は区内の別の学校に勤務しており、当時は新しい学校で教壇にたつてみたい

という希望を抱いております。

本校の創立時に携わった方々の基盤を作り上げるための議論と共通理解によって築かれた目標や夢に一步でも近づけられるよう、本校の教育課程を地域・保護者と連携しあい進めていきたいと考えています。



天神小学校の現在

開校九七周年

副校長 牛山 聡

大久保地区青少年育成会の皆様並びに関係者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

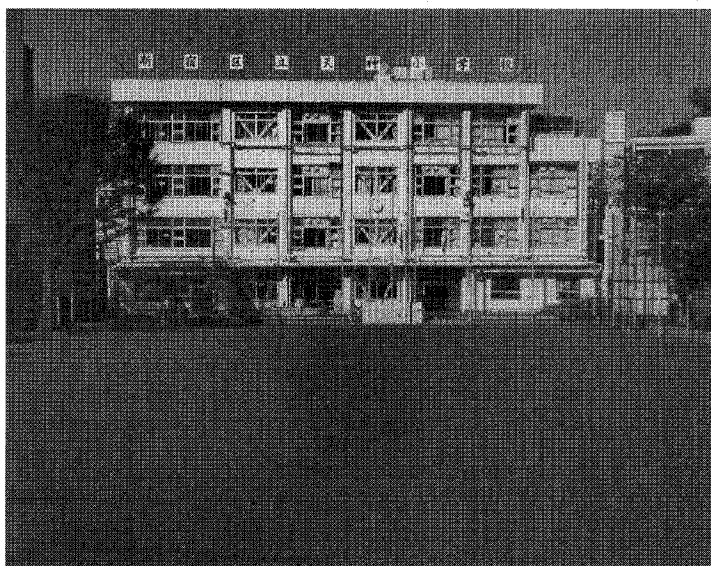
さて、昨年四月に着任してから一年が経ち、少しずつ本校や地域の様子が分かってきました。そこで現在の天神小学校の様子を一部紹介したいと思います。

天神小学校の大きな特徴の一つは何といっても少人数であるということです。

一部の私学や学習塾等で少人数教育を強調しているところがありますが、やはりそれだけのメリットがあります。子供の数が少ない分大人の目が届きやすいです。実際に授業中は、教員が一人ひとりの進度や理解度、発言する機会などを考慮しながら授業を進めています。また、可能な限り担任以外の教員も授業に入り学習支援をしています。

さらに、休み時間には、多くの教員が校庭で子供たちを見守り、何かあればすぐに対応しています。子供たちも困ったことがあれば校庭にいる教員誰にでも相談をすることができるようになっています。このように、子供たち一人ひとりを全教員で見守っています。

えています。歴史は浅くても、学習に行事に励む熱意が年数を積み重ね、幹を太くさせ、深みのある年輪を刻み続けて成長する学校にしていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



また、縦のつながりが強いことも少人数のメリットです。仲良し班を中心として上級生が下級生の面倒をよく見ています。一年生は休み時間たくさんのお兄さんお姉さんと遊んでいます。下級生はもちろん、上級生も一緒に楽しんでいるところが微笑ましいです。このような活動を通して自分の学級だけでなく他の学年のこともお互いによく知っています。

今年度は一年生が三十人入学し、全校で約百四十人まで増えましたが、単学級少人数教育であることは変わりません。

環境面では、校庭の天然芝を生かし、健康でたくましい体づくり、体力向上に励んでいます。体育を中心として授業研究を行ったり、継続して体幹を鍛える運動を行ったり、裸足で遊ぶ時間を多く設けたりなどして天然芝を生かした体力づくりを推進しています。そのためけがも少なく、休み時間全力で走って遊んでいます。同じ区内の小学校の校庭と比べてもかなり広いのですが、これだけ広い校庭を裸足で思いっきり走れる環境はなかなかないと思われれます。ここで子供たちはのびのびと体を動かし丈夫な体づくりをしています。

まだまだ紹介したいことはたくさんありますが、紙面の関係上ここまでとします。

あと三年で開校百周年を迎えます。百周年に向けて本校の教育目標である「自立する児童」の育成を目指して職員一同ますます頑張る所存です。今後とも変わらぬご支援よろしくお願い申し上げます。

少年院見学研修を通して

地域で果たす「抑止」と「更生支援」の機能

天神小PTA会長 関 晋 弥

正式名称「東日本少年矯正医療・教育センター」。府中にあった関東医療少年院と、神奈川県相模原市にあった神奈川医療少年院が統合され、今年の4月に昭島市に完成したばかりの、総収容人数210名（研修時点では60名収容）という巨大な少年院である。

2019年7月24日、大久保地区青少年育成委

員とPTAの皆さんそして、随行の新宿警察署員も含めた18名が参加。我々の見学は開所して2例目とのことであった。

到着して最初に抱いた感想は「で、でかい……！」。それもそのはず、元々2つの少年院が統合されてきたということに加えて、少年だけでなく成人を対象とした東日本成人矯正医療センター（いわゆる刑務所）や、法務省管轄の複数の施設が併設され、12・1万㎡（およそ東京ドームの2・5倍！）もの敷地面積を誇る巨大施設である。

柔和な笑顔が印象的な担当職員の方のご説明によると、いくつかの「日本初」な施設とのこと。①少年院は、障害や犯罪の重度、あるいは年齢によつて第1種〜第4種に分かれるそうだが、日本で唯一全種を収容する少年院である ②少年院と



しては初めて、食事や清掃などを一部民間委託している、といった説明があった。

話の中で最も強く心を抉られたのは、収容されている少年少女の生い立ちと、彼らが犯してしまった犯罪についてご説明いただいたシーン。聞けば、収容されている少年・少女の約半数は、親から何らかの虐待（直接的な暴力に加えて、言葉の暴力や育児放棄も含めて）を受けていた、という。そして、彼らが犯してしまった犯罪の率でいうと、「わいせつや強制性交などの性犯罪16%」「窃盗13%」「傷害10%」が上位を占め、続いて高かったのは、なんと「殺人10%」であった。自分の子どもたちと変わらない10代の少年・少女たちの中にも、家庭に居場所をなくし、他者の命を殺めてしまふところまで追い詰められている子どもたちが少なからずいる、という事実をまざまざと突き付けられ、胸が締め付けられる思いであった。

その事実を前にして、地域ができることは何だろうか？ 帰りのバスの中で足りない頭で考えた結果、大きくは2つあるのでは、という仮説に至った。1つは、居場所をなくしている子どもたちに、少しでも拠り所となる場を地域として提供する「抑止」の機能。親以外頼れる大人がいないという状況を踏まえ、問題解決とは至らないまでも気軽に話しかけられる近所のおじさんおばさんがいる、という環境だけでも、だいぶ未来に違いが生じるのではないか、と思う。もう1つは、過ちを犯してしまった子どもたちが再び普通の生活に戻れる「更生支援」の機能。偏見を無くし、温かい眼差しで見守るコミュニティがあるという事で、子どもたちの負える重荷を軽くできないだろうか。子どもたちの気持ちに少しでも寄り添える「地域のおじさん」の大切さをかみしめた初夏の少年院研修であった。

社会環境部

親子で楽しむスケート教室

昨年度最後の育成部の行事として、平成31年3月10日、高田馬場にあるシチズンプラザのスケート場にて「親子で楽しむスケート教室」を実施しました。ところで、なぜシチズンプラザと名前が付いているのかご存知ですか？ シチズン、そう時計のシチズンです。この地が発祥だそうです。世界に誇る時計メーカーです。高田馬場にはいろいろな有名ポイントがあるのですね、驚きです。



さて、今回で三年目、三回目となるスケート教室。当日は100人を超える親子がスケートを楽しめました。教室ということで専門のコーチ2人を依頼して、初めて氷の上に立つ子ども達の指導にあたってもらいます。おかげさまで大きなけ

がや事故もなく、参加された皆さんも楽しい一日を過ごされたかと思います。初年度は運営方法や子ども達が集まるのかなどの不安材料でいっぱいでしたが、3回目ということで、主催者側もそれほど不安もなく実施することができました。

育成部の行事は、その年度に担当となった各校のPTAの保護者の方々とアイディアを出し合いイベントを企画します。親子で楽しめること、集客力があるか等も重要ですが、運営するPTAの方々の負担が少ない行事であることも重要です。その点で、このスケート教室は受付さえきちんとなせば、あとは自由に遊ぶ子ども達をサポートするだけなので、運営側の負担も少なく良い行事だと考えています。年末のボーリング大会のように定例化に適している行事だと思いますので、多分来年も実施しますのでよろしく願います。

普通に歩けるようになったくらい小さいお子さんから楽しめるのがスケートです。ぜひスケート未経験な皆様、参加をお待ちしています。

育成部 水谷紀雄

親子で楽しむ水でっぽう作り

夏休みが始まった最初の日曜日、戸山公園いこの広場にて「親子で楽しむ水でっぽう作り」を開催し、50組以上の親子の参加がありました。広い公園に大きな歓声が沸き上がり、楽しい一日を過ごされたかと思えます。どれだけ、この紙面でその時の状況を伝えられるかわかりませんが、本当にみんな楽しそう！

今どきの都会の子ども達は、天気の良い日でも家にこもってゲーム。広場や公園で飛んだり、転がったり、走り回ったりイメージはありません。でも、この水でっぽう作りではそんな今どきの子



どもの印象はありません。工作そのものは40分くらいで完成します。そして、できあがった水でっぽうで水のかけ合いが始まります。広い公園が狭く感じます。みんなシャワーを浴びたようにビショビショになって走り回っています。お父さんもお母さんも、参加者のほとんどがビショビショになっても気にする人はいません。指導する私も、子ども達の標的となってビショビショ。でもなんか楽しい。夢中になって遊ぶ、走り回る子ども達の様子を久しぶりに見た感じです。

今回のイベントで運営側となった私も、各校の育成部担当のPTAの方々も体は疲れたかと思いますが、子ども達のその姿をみて元気になったのでは。子どもの喜ぶ姿を見るのは楽しいです。また、申し込みのチラシには濡れてもよい服装、着替え

とありますが、イベント解散後、帰宅する子ども達の様子を見ると、みんな濡れたままで帰宅したようです。楽しく遊んだ証としてほほえましく感じました。

育成部 水谷紀雄

第9回 ここ・からまつりのお知らせ

子ども総合センター

ここ・からまつり実行委員会

今年も「ここ・からまつり」の季節がやってきました！

屋台広場やふれあい動物園も充実！

「新宿シンちゃん」「あつまるくん」「同心くん」等のマスコットキャラクターも元氣一杯にみなさんをお迎えします。他にもスタンプラリーやいろいろな催し物が皆さんをお待ちしています。ステージパフォーマンスにも注目！

ぜひご家族や友達を誘って、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております！！

◆日時 11月10日(日) 午前10時から午後3時まで

◆会場 新宿区新宿7-3-29「新宿ここ・から広場」

(子ども総合センター、しごと棟、

マザアス新宿、多目的運動広場等)

◆問合せ 3232-0673

ここ・からまつり実行委員会事務局
(子ども総合センター管理調整係内)

お知らせ

◆令和元年5月21日

令和元年度大久保地区青少年育成委員会総会が開催され、全議案が賛成多数により可決承認されました。